

令和6年度 多摩市立聖ヶ丘中学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重を基調とし、健康で人間として調和のとれた個性豊かな生徒を育成する。 ○ 心身ともに健康で実践力のある生徒 ○ 深く考え進んで学ぶ生徒 ○ 人や物・自然を大切にする生徒	
目指す学校像（学校経営ビジョン）	
・生徒にとって行きたい学校 （学習意欲が沸き、自他を認め合い、いじめがなく、感動的な体験ができる学校） ・保護者にとって通わせたい学校 （安全・安心で生きる力が育まれる学校、信頼できる教職員のいる学校） ・地域にとって信頼できる学校 （情報が適切に発信され、地域の願いや教育力を活かせる学校） ・教職員にとって充実感のある学校（生徒や保護者・地域との信頼関係があり、努力や取組の成果を感じられる学校）	
目指す子供像	目指す教師像
・自他を尊重し、思いやりの心を持ち、より良い人間関係を築ける生徒 ・社会の一員としてしっかりとした規範意識と向上心を持つ生徒 ・課題意識を持ち、学習活動・特別活動・部活動などに主体的・協働的に取り組める生徒 ・常に健康・安全・体力の向上に努め、将来にわたって心身共に健康な生活を送れる生徒	・教育に対する熱意と使命感を持ち、向上心と適応力のある教師 ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・生徒の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・組織人としての責任感、強調性を有し、互いに高め合う教師・

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	生徒が「わかる・楽しい」と感じる授業実践と英語力の向上			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評価	現状の分析と改善策	評価	学校運営協議会委員 の意見
授業に前向きに取り組み、授業 が分かると感じる生徒を90% 以上にする。	4	98%が前向きに授業に取り組 む、96%が授業の内容がよくわ かると肯定的回答をしている。学 力の定着につなげる。	A	わかると感じるだけではなく、「できる」にすることが重 要である。 タブレット端末を使用するこ とで、まったくできないという ことがなく、生徒が授業に参 加できているように感じる。 これからの社会で絶対に必 要であるので、正しい使い 方を身に付けてほしい。
学習のねらいを達成できるよ う、ICT 機器を効果的に活用す る。	3	94%の生徒がタブレットは学習 に役立っていると肯定的回答を している。一方で使い方に課題が ある。	A	
3 年生での ESAT-J のスコア を都の平均以上、英検3級以上 の取得を50%以上にする。	3	ESAT-J の都の平均スコアを 5.5 ポイント上回った。英検 3 級 以上の取得率は46%であった。	A	
評価のまとめ	「授業がわかる・前向きに取り組んでいる」が、確実に学力の定着につながるよう に、ICT 機器の活用を含め、各教員の授業力の向上を図っていく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	道徳教育の充実、いじめの防止、自己肯定感の育成			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員 の意見
道徳科の授業を充実させ、自分の考えをもち、他者を尊重する態度を育む。	4	97％が自分で考え他の人の意見をしっかりと聞くと肯定的回答をしている。	A	道徳授業地区公開講座での授業でも、生徒が良く考えていることが伺えた。 100％の生徒がいじめを許さないと回答しているのは素晴らしいことである。
いじめを許さず、他者を思いやる生徒を95％以上にする。	4	100％の生徒がいじめは許さないと回答している。実際にいじめが0になるよう指導を行う。	A	
自分の良さを理解し、他から認められていると感じる生徒を80％以上にする。	3	85％が自分の良さを理解し、77％が認められていると肯定的回答をしている。	A	
評価のまとめ	道徳教育の充実、生徒一人ひとりが自分の良さを生かして活動する場をつくることで、自他を尊重することができる生徒を育成し、いじめ防止にもつなげていく。 生徒が安全・安心を感じられ、のびのびと活動できる学校を目指す。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	体力向上や日常の安全意識、健康管理能力の向上、ボランティアマインド			
評価項目 （目標とする成果・指標 %）	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
体力や運動機能の向上を目指す生徒を80%以上にする。	4	82%が体力テストで自己目標に達成していると肯定的回答をしている。健康管理能力を向上させていく。	A	学校が課題としている、健康管理能力（生活習慣や健康管理）は生徒が意識をもっていけるようになるとよい。 ボランティア活動への参加はさらに増えていくとよい。
日常の事故や怪我の防止に努める生徒を80%以上にする。	4	87%が怪我や事故防止に努めていると肯定的回答をしている。	A	

地域行事への参加やボランティア活動への参加を増やす。	4	呼びかけをした全ての活動に参加があり、複数回参加する生徒もいた。より多くの生徒の参加を促す。	A	
評価のまとめ	日常の学校生活の基盤となる健康管理能力の向上は、生徒自身が考えていけるよう、生徒会活動等で生徒主体となって取り組んでいけるようにする。地域行事やボランティア活動への参加は、体験した生徒からその良さを伝えて、新たな参加生徒の広がりをつくる。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	コミュニティスクールとして、地域・家庭との連携の充実			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
地域学校協働本部と連携した活動をより充実させていく。	4	地域未来塾の参加生徒の増加、検定の実施、学校農園活動への生徒の参加と、活動が広がった。	A	地域未来塾への参加や、検定受検に積極的な生徒が多いのはよいことである。 学校農園等の地域との協働活動を広げていってほしい。
授業公開、学校だよりや学校HPでの情報発信等で、学校への理解を深める。	4	授業公開では毎回多くの参加があった。保護者による学校評価アンケートで、肯定的回答の割合が増加した。	A	
小学校・特別支援学校との交流を充実させていく。	3	それぞれの交流の機会を生かすことができた。事前の打ち合わせで内容の再検討を行い、より内容を充実させる。	A	
評価のまとめ	地域学校協働本部との連携を深め、地域・保護者の力を得て、生徒が「地域の学校」という意識を高めて地域で活動する場面を設けていく。小学校・都立多摩桜の丘学園との交流も改善を図っていく。			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

○確かな学力の育成に向けて、ICT 機器の活用を全教科で行い基礎・基本の定着を図る。 ○100%の生徒が「いじめはいけない」と考えているが、SNS でのトラブルが起きている。正しい SNS の利用について、より具体的に学ばせていく。 ○自己の健康管理ができる生徒の育成を目指す。 ○コミュニティ・スクールとして地域学校協働本部との連携をより深めていく。 ○総合的な学習の時間の全体計画を見直し、3 年間を通しての継続的な ESD の推進を図る。
--

以上のとおり報告いたします。

令和7年3月27日

多摩市立聖ヶ丘中学校 校長 矢野 尚子

公印

令和6年度 学校評価書



多摩市立聖ヶ丘中学校